

野菜



抑制かぼちゃ今後の管理



野菜

寺田 至

上島宮農指導センター
090-6897-7996

1. 肥培管理

大玉果を生産するには約28枚程度葉数が必要となります。

追肥は、着果節位の雌花が開花直前に行き、2回目は着果確認後施用します。

追肥位置は、株元及び着果節周辺に行います。

2. 交配

着果位置は、1本仕立ての場合は10～15節に着果させます。2本仕立てでは、10節以降に着果させます。下段着果は、小玉につながるの株元周辺の果実は必ず摘果しましょう。交配の時間は、授粉率を高めるために午前9時頃までに終わります。

3. 整枝・摘果

1番果がソフトボール程度に肥大したら、「1蔓1果」に摘果し、シートの設置を行います。また、日焼け防止の為、新聞紙や藁などで日よけをします。

着果節位から本葉15～20枚以上を残し早めに摘芯します。また、着果節位以降の側枝は、原則取り除くが先端の2～3本は必ず残します。

4. 病害虫防除

害虫

農薬名	使用回数	使用時期	使用回数	対象害虫
トリガード液剤	1000倍	収穫前日	3回	ハモグリバエ
カスケード乳剤	2000倍	収穫前日	3回	ハモグリバエ
アフアーム乳剤	2000倍	収穫前日	2回	スリップス
モスピラン水溶剤	4000倍	収穫前日	2回	アブラムシ

病害

着果時期又は朝夕涼しくなってくるとうどんこ病の発生が見えはじめます。

農薬名	使用回数	使用時期	使用回数	対象病害
トリフミン水和剤	3000～5000倍	収穫前日	5回	うどんこ病
ストロビーフロアブル	3000倍	収穫前日	3回	うどんこ病・べと病
イオウフロアブル	500倍	収穫前日	制限なし	うどんこ病
ダコニール1000	1000倍	収穫7日前	3回	うどんこ病・べと病
Zボルドー	500倍	収穫前日	制限なし	べと病・疫病

※うどんこ病が発生した場合は、薬量を多めにしたっぷり洗い流すように散布してください。

※日中の高温時(30℃以上になる時)には薬剤の散布を避けてください

5. 収穫

交配後、45日(積算温度9000℃)程度を目安に収穫します。

交配日が幅広い所については、分けて収穫を行います。

収穫後、生り口を短く切り返し、1週間程度陰干し乾燥させた後、布でよく拭きあげます。

畜産



子牛の第1胃(ルーメン)の発達の重要性について



畜産

井上 正一

黒毛牛検定センター
080-1729-1626

子牛は成牛になるまでは、ルーメンから第4胃までの4つの消化器官があります。生まれたばかりの子牛のルーメンおよび第2胃は無菌状態で、消化管としての機能は持っていません。ルーメンの占める割合は生後1週間では25%ですが、成牛になると80%にも増加します。逆に、第4胃は生後1週間では60%を占めています。成牛になるとわずか7～8%を占めるだけになってしまいます。第2と第3胃の占める割合は、子牛から成牛になるまでほとんど変化しません。したがって、子牛を育成して生産性の高い成牛にするためには、ルーメンを大きくさせる必要があります。

生後1週間で消化能力を持っている胃は第4胃だけです。初乳を含めミルク代用乳などを給与すると、第4胃に流出します。第4胃には流出したミルクは、蛋白質分解酵素により凝固し、ゆっくりと小腸内で消化されます。とくに初乳が第4胃で凝固することは非常に重要で

す。その理由は生後数日間は小腸の消化酵素の働きが十分でないため、消化しきれずに下痢を発症させてしまうからです。

生まれたての子牛のルーメンは消化機能を持っていません。子牛のルーメンの発達はルーメン壁の筋肉を厚くすると同時に絨毛を成長させ、消化機能を持つ胃にすることです。そのためには、穀類の給与が非常に重要になります。ルーメンは初めは無菌状態ですが、生まれた直後から環境下にいる微生物が口から侵入していきます。摂取された穀類は、ルーメン内ですぐに微生物により発酵し、発酵により生産され酪酸、プロピオン酸が絨毛の成長に必要となります。

以上の事から、生まれてすぐの子牛には十分初乳を与え、生後1週間以内に濃厚飼料(モーレット等)の給与を開始し、ルーメンの発育を促し、健全な子牛の育成に努めましょう。

當情



お米の歴史学

朝鮮の米

国士舘大学21世紀アジア学部教授 原田信男

● 原田信男
日本に米を伝えたのは朝鮮の人々で、それは今から20000〜30000年前のことでした。

日本への米の伝来については、中国南部から東シナ海を通って来たとする説や、沖繩経由でもたらされたとする説もありましたが、考古学的な遺跡・遺物の研究からは、ほぼ間違いなく朝鮮半島からやって来たと考えられています。もちろん、それ以降も朝鮮半島でも盛んに稲作が行われてきましたが、日本の場合のように、特に米という価値観に国家や人々の視線が集中することはありませんでした。

このため朝鮮では、日本に比べて稲作技術の展開が遅れました。前にも書いたように、19世紀末ごろの朝鮮における苗代の種まき量は、同時期の日本の倍近いもので、稲作の生産量がかなり低かったこととなります。これは朝鮮では、用排水路が整備されていないため天水田が8割を占めており、10a当たりの収量が少なかったためです。20世紀に入ると、日本は恒常的な

の輸入国となっていました。当時植民地だった朝鮮に求めました。それには朝鮮の稲作生産量を上げる必要があり、1920年代から朝鮮総督府は、産米増殖計画を打ち出し、30年計画で耕種の改善と80万ha相当の土地改良を行うとしました。その結果、1910年ごろには190万トンだった収量が、1940年ごろには400万トンに増加しました。

しかし産米の多くが日本に輸出されたことから、朝鮮の地主や土木業者には有利でしたが、農民たちは米を売って満州からアワを買って生活することとなり、貧農の生活を脅かしました。日本でも朝鮮米が全体の米価を引き下げたことから、日本の農村恐慌を悪化させる結果となりました。さらに第1次大戦後の世界恐慌の影響もあり、事業資金も苦しくなって、1934年には事実上の計画打ち切りとなったのです。

果樹



10月の柑橘園管理



果樹

木蜜 栄次
上島営農指導センター
080-1759-0088

8月末に実施した果樹部会摘果確認会では、露地デコポンで平均5.8cm、河内晩柑については平均7.0cmの肥大状況でした。中晩柑においては今月から肥大が緩慢となり、成熟期に入ってきます。今後は果実分析を定期的に行い適期管理に努めましょう。

1. 病害虫防除

毎年極早生の収穫時期になりますと、カメムシ・ヤガ等の発生が見られます。ご注意ください。

対象品種	対象病害虫	薬剤名	希釈倍数	収穫前日数		備考
				温州	中晩柑	
温州みかん	貯蔵病害	ベフトップジフロアブル	1,500倍	7日前	前日	1回目
		ベフラン液剤25	2,000倍	前日	前日	2回目
全品種	カメムシ	スタークル顆粒水溶剤	2,000倍	前日		発生時
		Mr. ジョーカー水和剤	2,000倍	14日前		

ハダニ発生時は下の農薬で対応下さい。薬剤抵抗性回避の為年1回の散布とし、スターマイト、ダニコングを使われている場合は、コロマイトで対応をお願いします。

薬剤名	希釈倍数	収穫前日数
スターマイトフロアブル	2,000倍	7日前まで
ダニコングフロアブル	2,000倍	前日まで
コロマイト水和剤	2,000倍	7日前まで

2. 温州みかん・ポンカン着色促進及び浮皮軽減

	時期	薬剤及び希釈倍数
1回目	10月上~中旬 (2~3分着色時)	サルファーソル 400倍 加用 シリカブロー 1,000倍
2回目	10月中~11月上旬 (5~6分着色時)	サルファーソル 400倍 加用 シリカブロー 1,000倍

3. 河内晩柑の落果対策

落果防止効果を高める為、果実のへた部分に良くかかるよう丁寧に散布を行いましょう。また、落果の一因として寒波が挙げられますので、寒波が来る前に散布を徹底して下さい。

時期	薬剤及び希釈倍数
10月中~11月上旬 (1~2分着色時)	マデックEW 2,000倍

4. 収穫後対策 (極早生温州みかん)

収穫が終わりましたら、チッ素主体の葉面散布を行い樹勢回復に努めましょう。

時期	方法	薬剤及び希釈倍数
収穫後	葉面散布	アミノジューシー N14 又は 尿素 500倍
	お礼肥	ハイヤ1号 4袋/10a